

# カンボジア・アンコール・プロジェクト 開始

暴力、虐殺、紛争の続いたポル・ポト時代の苦難を乗り越え、1994年以降国際社会の参入によって目覚ましい勢いで復興が進んでいるカンボジア。特に著名な世界遺産アンコールワットのあるシェムリアップ（首都プノンペンより北西へ約250km）では、観光産業が栄え、都市に暮らす人びとの生活にもめまぐるしい変化をもたらしました。一方、郊外に一歩出ると、読み・書き・計算を学ぶ機会さえない、貧しい村で暮らす人びとの現状があります。



日本ユネスコ協会連盟では、このような現状を踏まえ、この度シェムリアップに拠点となる事務所を構え、現地の人びとと協力しながら「カンボジア・アンコール・プロジェクト」を開始することとなりました。シェムリアップ州に暮らす人びとに学びの場を広げていくだけでなく、日本からより多くのサポーターが訪問し、現地の人々との交流を通し相互理解を図っていけるような世界寺子屋運動を展開したいと考えています。

## カンボジア基本情報

国名：カンボジア王国

人口：13.5百万人（2002年現在）

首都：プノンペン

民族：カンボジア人（クメール人）  
が90%

言語：カンボジア語

宗教：仏教（一部少数民族は  
イスラム教）

政体：立憲君主制



皆さまの温かい応援をどうぞよろしくお願いいたします。

# 出張こぼれ話

## 「カンボジアは冷蔵庫？」

カンボジア・アンコール・プロジェクトの現地調査から戻った池本まり子職員より  
日常生活的一幕を伝えてもらいます。

カンボジアの気候は年間を通して高温多湿。年間の平均気温は25.4、平均湿度は77%といわれている。特に雨季直前である4月、5月は酷暑の時期で、日中の気温は35~40 近くになる。出張に来る度に直面するのが、滞在する部屋と外の温度差だ。

宿の室温はいつも冷蔵庫の中にあるような感覚の温度（多分18 ぐらい）に設定されているが、外に一步踏み出せば、あわや熱中症にかかる程の高温にさらされる。

部屋の温度はいつも一定（冷蔵庫状態）に保たれていることが多く、自分では調整できないため、寝ている間に身体が冷えきってしまうこともしばしば。今回の出張中もある朝目覚めた時に喉が痛くなっていることもあり慌てた。

この温度差問題が出てきたのは、シェムリアップで観光開発が進み、外国人客が増え出したおそらくここ5年くらいの間か？

一方、一般的なカンボジアの人たちの家(村においては、ほとんどが高床式タイプ)は風通しも良く、日中の暑い時間帯であっても、子どもと犬が、気持ち良さそうに一緒にハンモックで寝ていた。それに引きかえ私たちの宿は・・・？

暑い中終日歩き回り、現地の人たちと話し合い、クタクタ汗だくの状態で、よく冷えた部屋に戻った瞬間の幸福感は確かに格別だが、極端な冷房はまさに電気の無駄遣いと言えるし、地球にもやさしくないだろう。



このシェムリアップの地に事務所を開設した際には、「電気の無駄遣いをしない！」と固く心に誓う出張となった。